

あじえんだ113

第10号



(絵：「河口湖の春」)

《も く じ》

- 特集：座談会「昔の川・今の川」2
・出席者 佐藤 保、天野 要、小野完二、小宮 昇
- 上下流交流事業報告 相模湾船上観察会7
- 流域ウォッチング8 流域の橋8
- 2002年度事業報告10
・流域シンポジウム ・ホテル学習会
- 流域団体活動報告12
・富士に学ぶ会 ・湘南華の会
- シリーズ 生き物たちの語る相模川8 「トビ vs. ミサゴ」14
- 流域紀行「ちゃんまげ塚」15

《座談会》

昔の川、今の川

今回は会報発刊第10号を記念して、山梨・神奈川両県から2名ずつの方にご出席たまわり、子どものころの川と最近の川の姿について話し合っていました。また長い間、川とかかわりあってこられたお二方に、編集委員がお邪魔し、お話を伺いました。

川は日常生活とともに

司会 お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。今日は『昔の川、今の川』というテーマでお話しいただきますが、「これからの川」も付け加えていただければと思います。まず、佐藤さんからお願いします。

佐藤 私が昔の川でいちばん思い出すのは、魚がいへん多かったことです。私が住んでいたところは谷村町^{やむらまろ}という城下町で、その中を川が流れておりました。川のあちこちに、鍋や食器を洗う場所がありました。もちろん顔も洗い、飲み水だけは別の所からもってきました。水道が引いてはありましたが、終戦後しばらくは、引いてあるというだけで、断水が多かったです。ですから、バケツとやかんをもっては、池に汲みにいっていました。そんな時代で、川には魚が非常に豊富でした。よくとれたのは、カジカでした。私どもはカジラと言っていました。次は「油っパヤ」で、ヤマメやアユは、敏捷なので捕るのは難しかったです。

また、ごとんべえ（ヒキガエル）もたくさんいました。ゴトと呼んでいましたが、この胃をとってカヤにまきつけて乾燥させ、腹痛時に飲ませると、てきめんに治ったものです。けがには、マムシを焼酎

漬けにしたものを塗ったりしました。はなが出て鼻の下が真っ赤になったときには、山でリスをとってきて、蒸して塗ったりしました。医者がないので、そうした知恵がはたらいていたのだと思います。

司会 いつごろまで、そうしていたのですか。

佐藤 私の小さい頃までです。当時、道志川では発電をしていました。それでも1軒で、1個か2個しか電灯をつけてはいけなかったので、家の隅は暗かったです。私たちの父親は、朝4時か5時に炭焼きに家を出て、帰りには炭を背負って戻ってきました。母や祖母は、炭を入れる俵をカヤと縄で作っていました。子供もその縄を編んだものです。私はなかなか編めず、よく叱られました。

1年のうち、魚を買って食べるのは2回くらいで、あとは川魚を食べていました。

電気は当時、動力用ではなくて、ただ電灯をつけるだけでした。終戦後になって、東電（東京電力）ができ、道志村へも電気が運ばれ、精米も水車ではなくて、電気です

るようになりました。

漁業組合ができたのも昭和30年頃になってからです。相模湖ダムができてからだと思います。それまでは、ヤマメも自然ふ化し、稚魚を放流することもなかったです。川で釣りをしている人は「体の弱い人、仕事をしてない人」であり、子供にも学校から帰ると、山へ（家で燃やす）木を切りにいったり、



佐藤 保さん

●出席者：（発言順・敬称略）

- ・佐藤 保^{たもつ}（山梨県都留市。都留漁業協同組合長。大正13年、道志村生れ、78歳）
- ・天野 要^{かねめ}（山梨県大月市笹子町。元石井工業(株)役員。大正6年生れ、85歳）
- ・小野完二^{かんじ}（神奈川県相模湖町与瀬。勝瀬観光(株)代表取締役。昭和4年生れ、73歳）
- ・小宮 昇^{のぼる}（神奈川県平塚市。当協議会幹事。昭和7年生れ、70歳）

●司会：

- ・牧島信一（編集委員）

馬のえさ（草）を取りに行ったり、縄をなうなどの仕事がありました。だから、なるべく学校で遊んで帰るようにしていました。《笑い》

司会 戦前のお話ということで、たくさんお話いただきました。つづいて、天野さんをお願いします。戦後のお話も、できましたらお願いいたします。

天野 小さい頃の川の様子では、昭和4、5年以前は水害などはありませんでした。小川を石でせき止めて水を貯め、素っ裸で飛び込み、水遊びをしました。楽しい川の思い出は、そうした水遊びやカジカやウグイ、アカハラ（イモリ）を捕ったりしたことです。



天野 要さん

災害とも背中合せて

天野 川のことでは心配したのは、そのころ橋は、4メートルくらいの丸太を2本あわせて造ったようなものだったので、よく流されました。流れると向こう岸へ渡れなくなることが困りましたね。川の変化で思うことは、やはり川の水が汚くなったことでしょうか。私の小さいころは、土がまで煮炊きをしていて、その水を朝早く、川まで汲みにいきました。夕方の川は水が汚れるからと、一日中それを使用しましたし、お米をとぐのも川でした。まあ、貧しい

時代でありました。

小野 先ほど、相模湖ダムの話が出ましたが、昭和15年着工で、昭和22年の完成だったと思います。漁業組合はもっと前からあったと思いますよ。ダムができて、漁業補償の問題が出たのです。

佐藤 そうですね。都留漁業共同組合は、お金で漁業補償をもらったのです。それでアユの稚魚を放流することになったのです。

小野 私も相模川の思い出というと、やはり子どもの頃のことですね。田んぼがありまして、手伝いをしたのですが、田んぼにいた魚をおいかけたりしたのです。川の水はきれいだったですね。水道の水のようにきれいだったです。川遊びとしては、10～20センチの御影石を川に投げ込み、誰が一番たくさん抱えてあがってこれるかなどを競いました。

夏にはアユがたくさん釣ってきまして、6月1

日の解禁日には、東京の方からつり客がたくさん来ていました。当時は、木材を「いかだ」で搬出して、このいかだにつかまって、怒られたこともあります。

それに、大水がでると大変でした。家の2階まで水につかってしまったり、「ふたせごい橋」という橋がもう少しで埋まるほど増水したり、大きな材木が流れてきて、それをトビで引き寄せようとして

溺れて亡くなった方も出ました。

一方では、魚も豊富であり、いかだ流しや渡し船などがあって、ダムができる前の川は、水も景色も自然であったし、川を利用した仕事もありました。渡し船は、おばあちゃんなどがやっていました。

司会 渡し船は一箇所だったのですか。

小野 勝瀬には一箇所でしたが他に何カ所もありましたね。また、遊覧の船が芸者さんなどを乗せて川下りすることもありました。鵜飼いでとったアユを塩焼きに一杯飲みながら、今の相模湖ダムのあたりの溪谷を下って、津久井湖の湖底になった荒川や小倉の集落までのコースがありました。

小宮 私は、川原でネズミやウサギを追いかけた思い出があります。タヌキもいたと思います。相模川は自然の河川敷でした。川に遊びに行くときに、親

から注意されたのは、川に飛び込むのはやめろということでした。砂利をすくっていたので、川底が深く、背が立たない所があったのです。

司会 とくにこのあと、高度成長期の開発により、社会全体が変わり、川も大きく変わっていったように思います。

川の流れる歴史をつくる

天野 川の流れる歴史をつくったということもあるでしょうね。

笹子の地形は、氷河時代の氷がとけて土砂が流れ堆積してできた扇状地せんじょうちです。昔は上流部に原っぱがあり、旧河川沿いにはいくつかの集落もありましたが、100年ほど前の大雨などにより河川が氾濫し、集落は大きな被害にあいました。

その結果河川の流れるも変わり、民家は、今安全な場所に移転し、地籍の異なる混合した「吉久保」、「白野」の集落ができました。

佐藤 道志村には、昔、源頼朝がきて矢を射たとい

う的場という場所にお祭りがあって、いま公園になっています。

司会 私は「家中川かちゅうがわ」という言葉を知って、辞書でさがしましたが、出ていないのです。

佐藤 そうです。「家中川」は、秋元但馬守のご家中を流れていたものを、そう呼んでいました。それが、都留市内では「寺川」「女川」「なか川」と呼んだりしていました。

そこでは、お米をといで川水を使う反面、ゴミも流しましたので、下のほうにいくとゴミが腐敗してとても臭かったそうです。そこで、コンクリートを

打ってゴミが流れるようにしたのですが、川に流れたゴミを今度は、東京電力で取水するさいに取ることになったのです。

川に何カ所か、鉄の棒を入れて、ひっかかったゴミを山へ穴を掘って捨てたり、かわかして焼却場へもって行ったりしたそうです。今、家中川がそっくりあいているところはなくなりました。上が道路になったりしています。

司会 そうしますと、皆様方は戦前をふくめ、自然豊かな中で少年期をすごされたわけですね。その後高度成長期に入り、自然から遠ざかって、箱物の建



小野完二さん

かいきおり

甲斐絹織に使われていた川の水

大月おまた・小俣夫妻をたずねて

大月の風原というバス停から、その集落は広がっていました。

訪れた小俣馨かおる・さよ子夫妻のお宅には、今でも織機しよつきの音が聞こえてきそうな工場が敷地内にあり、昭和29



年に電気が送電されるまで集落を流れる浅川の水を取り入れて織機を動かしていました。

当時は、川の水が多く流れていたことを思わせるように、13軒がベルトン式やタービン式により半木製織機を動かして、甲斐絹を織っていたとのことでした。

日常の小麦や大麦・もろこしなどの食品加工のため、地域共同の水車も利用されていました。

さよ子さんは朝 4 時半に起き、女工さんや家族の食事作りから機織はたオリまで、一日中働きづめだったこと、馨さんは出来た甲斐絹の販売などで夜 11 時過ぎにようやく帰宅する日々だったとか。ご夫婦の手には、手作りに徹底した暮らしぶりの歴史が刻み込まれていました。

山梨県東部の甲斐絹を織り続けていて、大月の女性たちに機織の指導をしておられる後藤元子さんのご紹介で、今回取材ができました。

(編集委員・中村道子)

設工事など、コンクリート系のものが、皆様の思い出の中にも入ってきたように思います。

佐藤 都留市では、「田原の滝」という昔からあった滝ですが、周りがえぐられてしまいました。最近また、見た目には自然な昔の姿のように、コンクリートを使いながら工事をしています。

小野 最近、河原の様子も変わってきたように思います。昔は、野ばらとか低い木が生えていて、ハチの巣などもあったし、月見草などもずいぶんたくさんありました。今は、どうでしょうか。

司会 月見草はあるようですが、カワラノギクは、どちらかというと生息不可能なくらいになってしまいました。昔を再現しようと保全する活動もやっているようです。

周辺環境美化の動きも

小宮 先ほど歴史の話が出ましたが、下流域でも有名なのは馬入川ばいりがわです。これは、源頼朝が川を渡ろうとして馬ごと落ちたので、そう呼ばれることになったということです。

また、南郷なんこうという地名があります。これは、歌舞伎の大江戸白波五人男の、五人兄弟の末弟である南郷力丸という遊び人の出身地で知られています。

ほかに、流域的つながりのあるのは、寒川町の相州一の宮はまのの浜降り祭です。御霊が川に流されて茅ヶ崎の海岸に上がり、それを祝って毎年7月中旬、神輿を担いで海に入るお祭りです。日本では珍しいお祭りの一つです。このときは二の宮が今の二の宮町、三の宮が伊勢原市、四の宮が平塚の北奥、五の宮が平塚の八幡宮です。

これらの神社の他にも、周辺の町々から神輿が集まり、多いときには50基くらいになります。神輿を担いで海岸に入っていくもので、相模川下流域を中心にしたお祭りといえます。

佐藤 桂川の上流では、川はいいもんだとどなたも思うように、外観をきれいにするために花を植えたり、シダレザクラの木を、木の親を募集して植えま

した。木の親は、いつも水やりをする代わりに、木に自分の名札をつけられます。

小野 相模湖のほうでは、湖ができる前のことですが、青田の篠原川に滝壺たきつぼの伝説がありました。滝壺から蜘蛛くもが出てきて、脇の木に糸をまきつけ、そばに来た人を滝のなかにひきずりこむというのです。

小宮 佐藤さんに伺います。芭蕉が都留をたずねていますが、そこで何か歌をつくっていませんか。

佐藤 芭蕉の碑に、何か彫ってあると思います。都留には、市営の「芭蕉 月待ちの湯」があります。芭蕉が間借りをしたところもあると聞いています。

小宮 当時、芭蕉の目からみて、平塚よりも都留の方が文化的だったと思いますよ。

佐藤 昔、甲府について、郡内地域では都留の谷村町やむらに郡役所などもあり、織物業がさかんで、栄えていたようです。

小宮 ものの本では、都留に豪商がいて、芭蕉を招いたとのこと。何の豪商だったか…。

小野 確か、関西のほうから江戸にのぼるのに都留を通ったと、何かで読みましたね。そう、茶壺道中でしたか。

天野 奈良・鎌倉時代は、山梨の中心は御坂でもありました。甲府は武田氏 3 代の時代に栄えたのであり、その後14代くらいまでは石和に住んでいたのです。谷村町はその頃、栄えていたのです。

佐藤 山梨県の中道町なかがみちには釈迦堂遺跡といって、中央高速道の工事のときに出てきた遺跡があります。



小宮 昇さん

先輩会員の環境意識にびっくり

司会 では、まとめという意味も含めまして、川を利用される方、川で遊ぶ方、森に入る方に期待されることといえば、どんなことでしょうか。

小野 相模湖の場合、ゴミの持ち帰り運動をしています。最初は苦情もきました。ただ、釣り客がリール釣りをしていて、糸がからまるとそのまま捨て、それが鳥の足などからまってしまうのです。それがいっこうに改善され

ず、ものすごい量なのです。

また、流れ込む水の汚れを見ると、家庭で使う洗剤量も1回分しか出ないような容器にして、使用量を守ってほしいと思います。メーカーにとっては、使用量が伸びないことになるでしょうが。

今、中学校で水のことなどを教えているようですが、やはり子供のころから機会ある毎に、こうしたことを身にしみこませていくことが必要だと思いません。私もこの流域協議会に入り、相模湖で行われたシンポジウムに参加しましたが、甘酒の茶碗を洗うと水が汚れるとか、紙コップだとゴミになるから竹でつくったコップで飲もうということ、あそこまで徹底するのはすごいと思いました。それをもっとPRしたらすごい力になると思います。あまり徹底しすぎると、「水清くして魚住まず」かもしれませんが、何か、うまくPRしていったらどうでしょうか。

協議会を知らない人が多いと思うので、川の見える場所に、こういう団体があってこういう事をしているという看板を立てるとかして、PRしたらよいと思います。

小宮 下流域では川のクリーンキャンペーンをしているのですが、最近、サーファーや釣りをしている人が手を貸してくれるようになりました。

小野 私は車から、高尾の辺の人が、定期的に道路

のカン拾いをしているのをよく見かけます。そのせいか、最近道路には、わりあいカンとかペットボトルが捨ててないように思います。きっとそれを見て、一般の人も、捨てるに迷惑だという意識がはたらくのではないのでしょうか。今、環境に対する意識も高まってきているので、もっと会員を増やし、もっともっと具体的にPRしていったらいいと思います。

小宮 そういうことは、私も市民だけでは限りがあるので、行政の方も一緒になって進めたいと思うのですが。

小野 東京都が多摩川上流・山梨県の山をたくさん買っているって、ご存知ですか。私は30年前に調べたことがあって、これがすごい量なんです。そして、横浜市が山梨道志地域を買っている。「多摩川は東京の井戸水」だということで、山梨の丹波、小菅のほうにはいると「東京都水源涵養保安林」というのがずいぶんあります。

司会 横浜市の飲み水の水源でいうと、88%が山梨県の森で、神奈川は12%でしかないそうです。

小宮 水は生活必需品です。長い間大量に水道水等使ってきたことで人間に不利を及ぼすこともありますから、水源税などを考え、水の確保・保全をしていかなければと思います。

司会 今日はいろいろと、話題豊富にお話をいただきました。皆様ありがとうございました。

カワラノギクと私

カワラノギクを守る会 会長 川又 猛

私がカワラノギクと関わってから12年になります。きっかけは、同じ神奈川県植物誌調査委員の先輩から「絶滅しそうな野草がある」と聞いたことでした。週に1回、しらみ潰しに捜し歩き、1年半後に座間市の河原で見つけたときの嬉しかったこと…。

カワラノギクは全国でも、相模川、多摩川、鬼怒川の一部にしか自生していません。しかも株数は、3つの川を合わせても5百株ぐらいと推定(2001年末)されています。静岡の阿倍川にもあるというので、去年、仲間と捜しに行きましたが、見つかりませんでした。絶滅だけはさせまいと、会員や地域の学校にも依頼して、河原の畑で保護活動をつづけ



ていますが、そこは本来の生活場所ではありません。でき得るなら、同じ水系の桂川のどこかの自然な川原の中で、ひとりで繁殖していける安住の地を見つけてあげたいと、ひたすらに、それのみを願っています。

(談)

(本会会員 海老名市在住)

上下流交流事業（2002年10月25日実施）

盛況のうちに「相模湾船上観察会」

本年度 2 回目の上下流交流事業として、相模湾船上観察会を実施しました。午前は、平塚新港（須賀漁港）から出港して相模湾を漁船上から観察し、また、午後は平塚市教育会館にて 3 名の講師による相模湾の生き物についての講演を聴きました。今回は、神奈川県からの参加希望者が、100名募集のところ187名もの応募があり、抽選となりました。お天気にも恵まれ、波も穏やかで船上からの観察では、烏帽子岩周辺に飛び跳ねる魚に歓声が上がっていました。桂川・相模川と密接な関係のある相模湾の現状を実感できた一日でした。

（神奈川県事務局）

＜参加者感想＞

広大な海に想う

高 部 清

相模湾船上観察会があるとき、「海に乗り出す＝日頃の繁忙なる業務を癒す」ということで、即 2 名の参加決定となった。

事務局及び幹事会の皆様には誠に失礼でしたが、山梨を出発するマイクロバスの参加人数から、事務局・行政のかたがた主体の物見遊山的な計画だろうと予測していた。

しかし、港に到着すると、あれよあれよというまに数台の大型バスがあらわれ、膨大な人数の老若男女が集合した。聞けばほとんどの方が遠方からの参加であり、地元の方々と合流し活動するという。船も地元の漁師さん方のご協力によりチャーターされたと聞き、大感動。不心得な考え方で参加したことを恥ずかしく思い、しばし反省を・・・

海にでて、波しぶきの激しさと、ときどき海面すれすれに泳ぐトビウオにおどろき、ざわめきがおこる。最近、海辺の座礁事故が多い。海水の色がわかりにくい、この付近は油、ゴミの浮遊物がなく安心した。しかし、河川から流れ出す水質の汚れはどうだろうか？ ダイオキシン等の環境汚染はどうだろうか？ 目に見えぬ水の汚れが心配になる。広大な海をながめ、一人一人のモラルがいかに大切であるかをあらためて想う。

海上観察後、平塚市博物館の庭でのどかな

昼食をとる。

相模湾に流れ出た河川流域からの展示物や、河川流域の古代人の生活に関する展示物なども見せていただいた。



午後からの講演には、会場をすべて埋め尽くす人々が集まり、地元の講師の先生方と参加者との熱心な討論に、環境に対する関心の深さをあらためて感じた。

今回のたいへん有意義な船上観察会に参加することができて、事務局・幹事・平塚市関係者・漁協の皆様にも、心より感謝します。

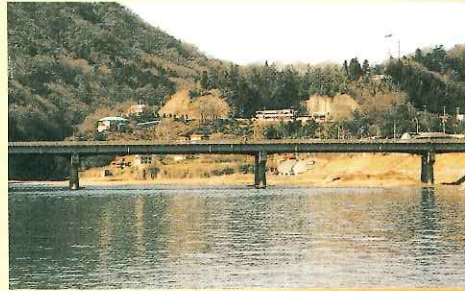
（河口湖精密株式会社）

流域の橋



⑩ 桂川橋

橋長200mで、鶴川合流よりやや下った所に架かる橋。このあたりで流れはすでにゆっくりとしており相模湖へとつづく。



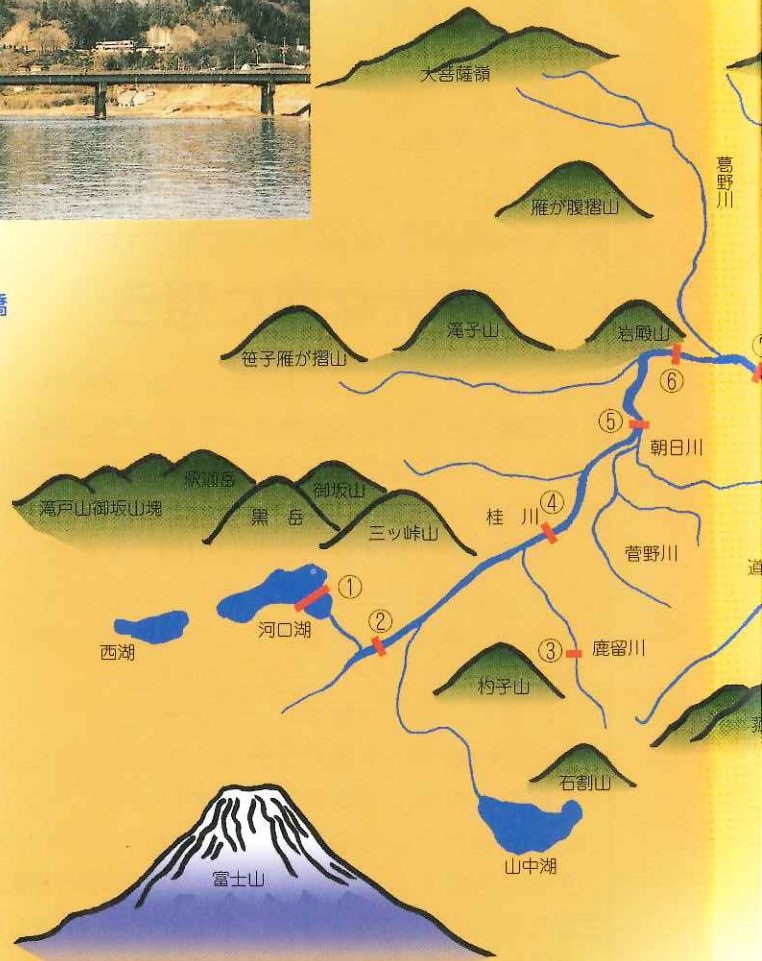
⑦ 猿橋

崖の両岸から角材を突き出しその上に橋桁がのっている構造は、猿群が対岸に渡る様子をヒントに考えられたと言われる。国の名勝に指定され、日本三奇橋の一つ。長さ30.9m幅3.3mの現在のものは昭和59年に再架された。



(山梨県)

- ① 河口湖大橋
- ② 宮川橋
- ③ 虹の木橋
- ④ 佐伯橋
- ⑤ 落合橋
- ⑥ 高月橋
- ⑦ 猿橋
- ⑧ 新猿橋
- ⑨ 鶴川橋
- ⑩ 桂川橋



⑥ 高月橋

橋長60m。大月市内国道20号から岩殿山へ向かう富士みちに架かる。時期になると橋からアユ釣り人をよく見かける。



① 河口湖大橋

橋長1.6kmの有料道路。観光による交通渋滞を緩和するとともに、湖上にとって自然にとけ込む観光客の感激を期待して昭和46年完工。

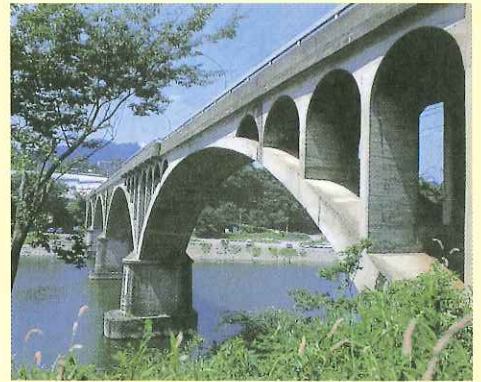
③ 虹の木橋

橋長23mで、杉・檜・材集合材による県内唯一の木橋。木材の有効利用の一環として施工。アーチリブを虹に見立てている。



⑬ 相模湖大橋

橋長135mで、相模湖を渡る橋としては代表的な橋。シルバーでアーチ型の橋は四季毎に湖面に美しい姿を映している。



(神奈川県)

- ⑪日蓮大橋
- ⑫勝瀬橋
- ⑬相模湖大橋
- ⑭三井大橋
- ⑮城山大橋
- ⑯小倉橋
- ⑰高田橋
- ⑱新昭和橋
- ⑲座架依橋
- ⑳新相模大橋
- ㉑相模大橋
- ㉒所沢橋
- ㉓湘南銀河大橋
- ㉔馬入橋
- ㉕湘南大橋

⑯ 小倉橋

橋長177mで、城山町内の相模川に架かっている。連続したアーチ型で堂々たる威風は周囲の緑にとけ込んでいる。



㉓ 湘南銀河大橋

橋長520mで、平塚市と寒川町を結んでいる。橋梁形式に斜張橋を採用し、橋脚によって起こる川環境への影響を考えた橋。



㉕ 湘南大橋

橋長698mで、相模川河口（平塚市～茅ヶ崎市）に架けられている。大動脈の道路である国道134号線にかかるこの橋は車の往来が非常に激しい。



㉑ 相模大橋

橋長381mで、厚木市と海老名市を結んでいる。多くの点で、わが国の近代鋼橋技術の先駆けとなった橋。



森林・里山からおいしい水は誕生する

12月8日、大月市民会館にて開催される

桂川相模川流域協議会が主催した、森・川・海との新たな連携、「市民参加による流域の森づくりと上下流域交流の促進」をテーマとしたシンポジウムが12月8日に、100名余りの参加者で大月市民会館を会場にして行われました。

この日はあいにくの雪で、予定された午前中の岩殿山の散策は取り止めになってしまいました。

笹一酒造「酒遊館」の見学と山仕事の話聞き終えて大月市民会館に到着した皆さんや一般参加者に向けて、展示室が設置され、今回のシンポジウムの意図が汲み取れるような多くの団体のパネルやコーナーが用意されていました。

この展示室の入り口付近には、流域協議会が今回初めて作ったカレンダー「清く豊かに川は流れ



る」が置かれ、カレンダー作成に熱意ある方々のご苦労を思い、ありがたく手にしました。

パネル展示に協力した団体は市民団体、学校、事業者、行政に加えて、森林組合等の協力による森の恵みコーナー（地域産の木製品、炭関係、竹製品、湧水関係他）もセッティングしてあって、かなり充実した展示の様子がうかがえました。

全体の進行は、司会役の牧島信一氏（市民部会・幹事）で行われました。また、冒頭でご挨拶をいただいた大月市長代理、および相模湖町長は、シンポジウムを最後まで傾聴されていたことが印象に残りました。

●基調講演

シンポジウムの中心である基調講演は日本大学生物資源科学部教授・塚本良則氏からお話をいただきました。

水源確保のための森についてベルギーの城の水道政策を例にし、日本の歴史的流れに伴う山の荒廃と今後の森林保護の重要性が強調されました。

- ・日本では平安時代の大規模寺社等の建立、江戸時代の人口集積と大火等による建築需要増大、昭和の戦中戦後と、3回の大きな森林荒廃があった。
- ・その復旧のため造林を進め、1千万haの人工林ができたが、手入れがされず、荒れている現状である。
- ・今は量的には豊かな森林と言えるが、質的に豊かにしていくべきである。
- ・人は一日に200ℓから400ℓの水が必要で、それをまかなうために300㎡から500㎡の森林が必要。「森林で汚れを発生させない、森林に汚れを持ち込まない」を森林行政の基本とする。
- ・都市の中でも緑のダムが必要である。などなど、お話しされました。

●パネルディスカッション

パネラーは以下の4氏、コーディネーターは生態系調査に関わっている篠田授樹氏で進められました。

- ・土屋真美子氏（よこはま里山研究所理事。市民が近隣の森に関わるためのシステム作りを進めている）
- ・下澤直幸氏（上野原小学校長。寄贈を受けた学校林を教育活動の場として、里山づくりに取り組んでいる）
- ・石村^{こうじ}黄仁氏（緑のダム北相模専務理事。荒廃した森林の再生事業の創出に取り組んでいる）
- ・河西悦子氏（当協議会代表幹事。水源環境改善のための森林ボランティア活動組織「大月森づくりの会」を始めた）

「ホタル学習会」実施

12月1日、大場信義先生を講師に



4氏それぞれの具体的な活動の紹介や提言がされました。

主な内容としては、

- ①森林ボランティアの育成。
- ②山村でも都市でも、地域の森は地域で守る。
- ③県産材、国産材の使用（建具組合とのイベントやバイオマスの利用など）。
- ④学校林を総合学習の場として整備を始め、多くの人々の協力を受け、子ども達の遊び、学び、育つ、をテーマとして進める。
- ⑤市民でもできる森づくりの高度な活動。
- ⑥上流の下水道整備には、市民の負担が大きすぎる。
- ⑦情報公開を進め、市民と行政のつながりを良いものに……
などなどです。

最後に、シンポジウム・アピール文を河西代表幹事が読み上げて、採択されました。

今回のシンポジウムでは流域のあらゆるところで暮らす人々が日々口にし、命を維持する水の質を良くするためには森づくりが必要であり、そのための具体的な上流と下流の取り組みが見えるものになりました。

一人でも多くの人々が森づくりに参加できるようにし、森づくりの実体験をすることで、上流と下流のつながりの大切さを実感し、流域産材の使用などに対する考え方も理解されていくことでしょう。

（編集委員・中村道子）

桂川・相模川流域の環境調査として、ホタル調査をH14,15年度の2年間で実施しています。

14年度は準備期間として学習を中心にを行い、次年度への調査へとつなげます。6月には実際に各地域のホタル観察会に自由参加してもらい、生息状況や環境を学習しました。

そして、総合的な学習として、12月1日に八王子市民会館を会場に、横須賀市人文・自然博物館の主任学芸員・大場信義氏より、ホタルの生態や環境、それらを取りまく背景などについて国内、国外から調査・研究された講義を受けました。

大場先生は、日本全国のホタルの生態をはじめ、世界のホタルまで幅広い調査・研究をされており、また、日本各地のホタルの復元にも力を注いでおられます。

ホタルは種類により、水辺だけでなく森の中にも生息していること、遺伝子の解明から生息地域による発光時間の違い（東日本のほうが西日本より光り方がゆっくり）があること、分布からルートが明らかになるなど、興味深いお話を聞くことができました。さらには桂川・相模川でも重視している森の生態にふれられ、ホタルが生息するには森が健全に維持されなければならないこと、森のあり方によっては一瞬にしてホタルが消えてしまうこと、その現状をまのあたりに体験されたことなどを話されました。

また、ホタルなどの生き物をもっと身近に観察できるようにと、三浦半島の京浜急行の駅ごとに、住民と一緒に観察場所を創りだしているそうです。大場先生は、「学問だけではホタルの棲める環境は守れない、実際に行動することが最善です」と話されました。私たち流域協議会にも言えることと、深く感銘いたしました。

（担当幹事・倉橋満知子）

富士に学び・富士に遊ぶ、そして人と自然との共生を学ぶ

NPO法人 「富士に学ぶ会」

理事長 荒井光雄

当会は、平成5年に誕生しましたので今年で10年の節目を迎えます。会の設立は、衰退化し元気のない富士吉田市が、このままで良いのだろうか、社会的責任世代の一人として何か地域に貢献できないだろうか、というものでした。

最初の2年間は、地域の経済や文化・政治・町づくり・環境のことなど時には夜中の2時3時頃まで精力的に論じ合いました。次にこれをどのように活動に結び付けていくかが問題でした。

私達は、地域づくりの基本は、地域の特性をしっかり認識し、地域の人達が連携し目的にむかって行動することにより道が開けるものと確信し、活動が始まりました。

私達が住む富士五湖地方は、富士山に抱かれた高原都市です。行政区域も富士山北麓の大部分を有し、富士山の湧水、地下水など、多くの恵みを受けています。

当会は、自然環境を保全し「富士に学び・富士に遊ぶ」中で、野外体験活動・創作活動を地域の子供達や大人に提供しています。活動場所は富士山や山麓の森、さらに里山などです。具体的には、森づくり活動や富士山の自然観察会・富士山エコツアーのインストラクター・富士山の清掃活動・木工や織物などのクラフト教室などです。

森づくり活動では、ブナ・ナラなどの落葉広葉樹の森づくりをめざし、植樹から間伐・下草刈・炭焼き・椎茸などキノコの植菌といった体験活動を行っています。自然観察会は、富士山や麓の森林地帯を中心とした山野草・溶岩樹形や溶岩洞穴・森の様子などを子供から大人あるいは学生達を対象に、定期的にレクチャ

ーしています。

清掃活動は富士山の環境保全に向けて、富士山吉田口登山道を中心として行政や地域の人々と連携し定期的に行っています。平成7年より始めましたが、当初は富士山の登山道や林道沿い、山麓の森にありとあらゆるゴミが不法投棄され、日本人のモラルを嘆いたものです。これを発奮材料に私達のゴミ戦争が始まりました。清掃活動を継続していくうちに、「ゴミがゴミを呼ぶ」ような状況に気がきました。そこで、「ゴミを捨てないで」の手づくりの看板を平成10年から平成11年にかけて22箇所に設置しました。当初、毎週していた清掃活動も、平成13年頃からは2～3ヶ月に一度の活動ですむようになりました。まさに継続は力なりという感があります。

昨年9月にNPO法人「富士に学ぶ会」として再スタートしました。当初10名で発足した会も、50名を数える団体に成長し「富士山を意識」して人と自然の共生を学びながら活発な活動を展開しています。

富士山は、日本の象徴であると共に私達の誇りでもあります。しかし美しいと言われる富士山も、ゴミや山小屋のし尿など環境面での問題がクローズアップされています。また、麓には青木が原樹海をはじめ、貴重な原生林に様々な動植物の営みがあります。富士山の環境を保全し、真に美しい富士山を次世代に引き継いでいくのは私達の責務でもあります。

人生80年を豊かに過ごすためにも、富士山麓の森で自然観察会や森づくり体験活動に参加してみませんか・・・参加をお待ちしています。

〈連絡先0555-24-1515〉



芸能ボランティアをされていて思うこと

「湘南華の会」

内田 弘子

1991年6月、学校の役員も終わり、これからどのように自分は社会に共生していったらよいのかを考え、おけいご事の始まりから、友人にお手伝いをしていただくように話しました。快く引き受けてもらい、芸能ボランティアとして湘南地域の老人施設を月3、4回訪問しています。

人から人へと伝わり、今、会員は250名になり施設も7カ所になりました。内容を見ると琴、三味線、学校の生徒さんの踊り、マジック、詩吟、日本舞踊、落語、パントマイム等多種の方がおり、自分自身会員さんとともに逆に元気をいただいています。

一口にボランティアといっても中に入ると少々難しい面もあるのですが、ホームの方々の喜びを感じると10年やり続けて良かったなと思い、また心を新たに襟を正し頑張ろうという気持ちになります。

入所されている方のいろいろな表情を見ると人生もようも伺い知ることがあります。自分も夫婦間、親子関係に気づかされる部分も多々あり、何事も日一日の積み重ねときずなのあり方を考えさせられます。

これからもこのような施設は増える一方ですが、(私事で恐縮ですが) ボランティアをされていて気付くことは、ホームで働いている方々の表情がとても疲れているようなのです。心身共に大変な仕事だという事です。将来、働いている方の心を癒すにはどうすればよいのか、この分野のケアもぜったい必要ではないか



とっております。とかくホームの入所者の方に光があたりがちですが、ワークの方々のストレスはどう解決したらよいのか考えてしまいます。

また施設にもいろいろな所があります。受け入れの良い所、高い料金でホテル並の所、小規模ながらも安らぎ感ある施設等々。もし自分がお世話になるとしたら、これは助言ですが、いろいろな施設を数多く見学する事をおすすめします。余談になりましたが、これは実体験です。

桂川・相模川協議会会員の方々の水や自然に対する考え方の趣旨には、多く賛同しております。また、機会がありましたら、水の大切さなど私も会員としても何かのかたちでお役に立てればと思います。

これからも介護の一端の役割として体の続く限り、社会の一員としてお手伝いできましたらこれほどうれしいことはございません。

● 川を評価する2つの視点 ～流域の魅力再発見事業を終えて～ ●

協議会の事業として取り組んできた「とっておきの桂川・相模川」(流域の魅力再発見事業)に、8名から10件の応募があった。改めて、この事業の意義について考えてみたい。

私は、川を評価するには2つの視点が必要と考えている。一つは、誰もが大切と思う普遍的な価値である。話題のカワラノギクやホタルなどがそうだ。もう一つは、一人一人が大切と思う主観的な価値である。誰が見ても汚いドブ川も、幼い頃に日が暮れるまでザリガニを釣った思い出がある人にとっては、そこはかけがえのない価値をもつのではないか。

協議会は流域の環境保全を目指している。では、保全すべき流域の環境とは何か? それは、皆が大

切だね、と満場一致したものばかりではないはずだ。川に関わる人々の意識は多様である。もちろん、議論を重ねて矛盾や誤解を解き、共通点を見いだして一つの価値観に収斂させていくことは大切だ。

同じように、違いがあるという前提に立った上で行動するという、実践的なアプローチがあってもよい。一人一人が流域の魅力を見つけることは、市民参加のひとつの方法としても意義のあることと考えている。

さて、今回どのような「とっておきの場所」が見つかったのか? 結果は年報で報告する予定である。

篠田授樹 (桂川をきれいにする会)

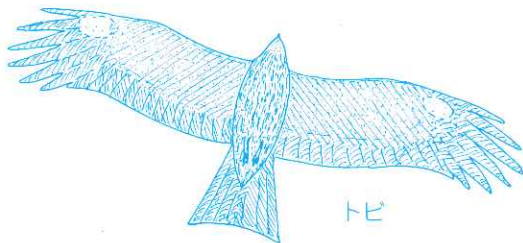
トビvs.ミサゴ

文・イラスト 浜口 哲一

トビ：春は気持ちがいいなあ。上昇気流に乗ってのんびり川を眺めていれば、この世の天国とはこのことだな。あれ、送電線に最近いやに目につく、きざなやつがとまっているぞ。

ミサゴ：おおい、トンビ君じゃないか。

トビ：トンビじゃないの、トビ！ 君こそ昔は見かけなかったのに、いつのまにか大きな顔をしているね。まず名乗ったらどうなんだ。



トビ

ミサゴ：これは失礼、私のことを知らない鳥がいようとは思わなかったんでね。私の名はミサゴ、タカの仲間じゃ紳士でとおっているんだ。お見知りおきを。

トビ：どうも人を見下したような言い方をするね。

ミサゴ：君と私を比べると、いろいろ差が目立つからね。まず服装。茶色一色なんて、ちょっと地味すぎやしないかい。そこへ行くと私なんか黒と白でめりはりがきいているでしょ。翼だって私の方が長いんだ。

トビ：ちょっと見かけがいいからって、それをいばるようじゃお里が知れるね。

ミサゴ：まだまだあるよ。一度、私が狩をするところを見せたいもんだよ。天空はるかでねらいを定め、一直線に川面に向かってダイビング。水面から舞い上がる時には50cmもあるボラなんかをつかんでいるんだ。それは力強いパフォーマンスだって評判なんだから。トビ君も魚が好きだって聞いたけど、どうやってつかまえるわけ？

トビ：僕らは、上空から弱った魚や死体を見つけてごちそうにありつく訳だから、地味かもしれないけど堅実な生き方って言えると思うね。だいたい、ミサゴ君は見かけるといっても、せいぜい1羽か2羽。ということは大勢いる僕らの方が成功しているっていうことじゃないか。

ミサゴ：数の事を言われると、確かにトビ君達の繁栄は認めざるを得ないか。言葉が過ぎたら許してくれたまえ。とまあ、すぐに謝れるところも、私の度量の大きいところだけど。

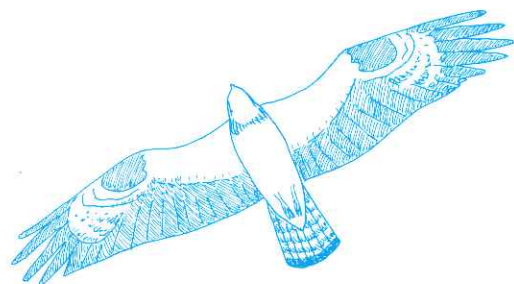
トビ：まったく口数が減らないね。それはそうと、相模川でも我々タカ仲間が増えてきた気がしないか？

ミサゴ：確かにこの冬はオオタカ君とかノスリ君によく会ったな。水辺の楽校の所なんか、ノスリ君が3羽も飛んでいてびっくりしたよ。

トビ：やはり、鉄砲を撃てる場所が年々少なくなってきたことの影響が出ているのかな。

ミサゴ：それは言えるね。直接ねらわれなくても、やっぱり気になるもんね。それにオオタカ君なんかにとっちゃ、餌になる鳥を追い散らかされてしまうわけだから。しかし、それでもまだ役者が一人足りないと思わないかい。

トビ：それぞれ。チュウヒ君が姿を見せないからね。相模川にももう少し広いヨシ原が続いた場所があれば、きっとふらりと遊びに来ると思うんだけど。



ミサゴ

出演者のプロフィール

トビ：タカ科の鳥。魚や動物の死体が主食。水辺をゆったりと帆翔していることが多い。

ミサゴ：タカ科の鳥。水中に飛び込んで魚をとる。相模川では下流で見られるが少ない。

(平塚博物館学芸員)

相模川紀行

ちょんまげ塚

※参考文献：広報ひらつか「新平塚風土記」

相模川下流の平塚市馬入^{はにゅう}というところに、蓮光寺^{れんこう}（平塚市榎町 9 - 9）があり、その墓地の西南に『ちょんまげ（丁髷）塚』が建っています。この塚の由縁がおもしろいので、紹介してみたいと思います。

昔、相模国府祭というお祭りがありました。鎌倉時代から相模地方に伝わる神事で、昔は“端午祭”と呼ばれ、毎年 5 月 5 日には寒川神社や平塚八幡宮など 5 社の神輿^{たんにこ}が、六所神社（大磯町国府本郷）に集いました。神職による座問答など一連の祭事は、神奈川県指定無形民俗文化財（昭和 40 年指定）となっています。

ある年、この祭が行われた日の夕方、東海道を帰還途中の寒川神社の神輿担ぎの若衆たちと、平塚八幡宮の神輿担ぎの連中がささいなことから口論に及び、やがて双方入り乱れての乱闘となり、打つ・蹴る・殴るの大喧嘩^{おおげんが}をやらがしてしまいました。

その年の八幡宮の輪番は馬入村（現在の平塚市馬入）で、喧嘩も馬入地内で発生しました。馬入方は理不尽にも、寒川神社の神輿を奪い取って練り歩き、あげくのはてに馬入川（相模川下流）の深瀬に投げ込んでしまったのです。当時の相模川は、現在のようなダムもなく、相模国を代表する水量豊かな大河であったことは、皆様もご承知のことと存じます。

この喧嘩では、両者とも多数の怪我人を出しましたが、理由は何であれ、寒川神社の神輿に対しての乱暴狼藉は、まことに不届き至極と言わざるを得ません。

馬入村の若衆たちは、時の代官江川太郎左衛門（伊豆韮山に住した江戸幕府の世襲代官の通称名）の厳しい取調べを受けることになってしまいました。

馬入村の役人はもちろんのこと、隣接する平塚宿の役人たちも、この事件が公儀の耳に入らぬよう嘆願しました。しかし、無情にも江川太郎左衛門は、下手人 16 人に死罪を言い渡したのであります。しかし、処刑当日には、下手人のちょんま

げだけを斬り落として斬首の刑に代えるという、お裁きで決着をつけたのでした。「罪を憎んで人を憎まぬ」寛大な処置に、当事者はもちろんのこと、村民たち一同も、嬉し涙にかきくれたといえます。

一方、馬入川を流れ下った寒川神社の神輿は、10 日ほど後に茅ヶ崎市南湖の浜辺に漂着し、これを漁師の孫七が鄭重^{ていじゆう}にお祀り^{まつり}して、神社側に通報しました。現在でも毎年 7 月 15 日には、寒川神社の御霊が南湖へ浜降りされていますし、この祭礼こそが、神輿にまつわる事件に端を発している



思われます。祭礼当日は、30基ほどの神輿^{ぎょうてん}が暁天の渚を乱舞し、茅ヶ崎の浜降り祭（神奈川県指定無形民俗文化財・昭和 53 年指定）として有名です。

この事件があったのは、文化 2 年とも天保 9 年ともいわれています。喧嘩そのものは 5 月 5 日ですが神輿が南湖の浜へ打ち上げられた日は 5 月 15 日と 6 月 29 日の 2 説があって定かではありません。

いずれにしても、首をちょん斬られる代りにちょんまげを落とされ、それを埋めたという碑が、蓮光寺に遺されているのです。

ちょんまげ塚の石碑（写真）は、元平塚市長戸川貞雄氏によって揮毫され、『むかし馬入川の若衆十六人のちょんまげを埋めた処という』と刻されていますので、お暇な折には是非、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

ちなみに、碑の材質は伊豆の小松石、台座は江戸城にあった石を用いているとのこと。

（佐々木次郎 平塚市環境政策課）

ホームページのご紹介

桂川・相模川流域協議会の公式ホームページを紹介いたします。<http://www.katura-sagami.gr.jp/>をご覧ください。今まで主として開催行事の予定等のお知らせを中心に広報活動を行ってきました。下欄にご紹介しているトップページのスクリーンプリント(画面印刷)は3月2日現在で4,627件を示しています。昨年の春から急速にしかも着実にアクセス件数が増えてきました。アクセス件数は次のような経過をたどっています。記録の一部を紹介します。

2001.09.10開設

2002.03.22=758件/06.11=1511件/
08.18=2359件/11.26=3588件

2003.03.02=4627件。

開設時から2002.03.22に至るまでほぼ4件/日でしたが、その後から現在に至るまでにほぼ10件/日に上昇しています。

今後は、会員の皆様のご協力で、より内容を充実させていきたいと考えています。検討課題としては、各種情報の速報性、報告書の充実、掲示板の開設などです。なお、HP更新時にメールでご案内しています。HP担当 = maks@fd.catv.ne.jp へご連絡いただければ、都度ご案内をいたします。その際、①氏名、②住所、③協議会のメンバー以外であれば所属団体名(会社・機関等を含む)、④メールアドレスを申込メール中にご記入下さいますようお願いいたします。(HP担当)



相模川湘南地域協議会からお知らせ 2003年度事業計画(予定)

① 会議等の開催

総会(1回) 運営委員会10回程度

② クリーンキャンペーンの開催

相模川河口干潟の清掃を実施。(5月)

③ 公開学習会の開催

座学及び野外学習会を計4回実施する。

(開催時期未定)

④ 市民団体交流会

上流団体との交流会(都留市、6月)

地域内他団体との交流会(2月)

⑤ 年報作成事業

当会の1年間の活動結果をとりまとめる。

あなたも入会しませんか!

—入会される方は、各県事務局まで御連絡ください。—

★市民年会費：個人会員 一口1,000円(一口以上)

なお、団体として加入される会員の方は、
二口(2,000円)以上をお願いします。

★事業者年会費：一口10,000円(一口以上)

<振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259

名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店

普通預金 6825559

名 義 桂川・相模川流域協議会

代表幹事 桑垣美和子

編 集 後 記

◆河又猛さんにカワラノギクの保存地を見せていただいた。細長の葉、茎の途中から分岐する花茎、種子の短い散布毛…、どれをとっても、自然豊かな川原でしか生きられない姿に特化してしまっている。この、あまりにもナイーブな生きものを絶滅から救うには、よほどの覚悟で河川環境の復元に取り組まなければいけない、と認識させられた。(A)

あじえんだ113

No.10 (2003.3.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県大月林務環境部

〒401-0015 大月市大月町花咲1608-3

TEL(0554)22-7838 FAX(0554)22-7848

神奈川県環境農政部大気水質課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)